

バレーボールが元気の源

今月の表紙は、区内のママさんバレーボールチーム「北栄クイーンズ」の皆さんです。十月上旬に市内で開かれた「二〇〇三年全道ママさんバレーボール大会」で優勝しました。創部十三年目、三回目の出場でつかんだ栄冠です。

北栄クイーンズは、北栄中学校の校区内に住んでいる主婦が参加しているチームで、優勝メンバーは、年齢三十歳から五十一歳まで、平均四十一歳の十一人。そのうち、学校の部活動での経験者が九人を占め、中には、高校バレーボール

界の名門、妹背牛商業高校での経験者もいます。大会は、十月四日、五日の両日、南区真駒内の屋内競技場（アイスアリーナ）で開かれました。二日間です。六試合という強



チームのコーチがメニューを組んで、密度の濃い練習をしています

行日程でしたが、普段の練習の成果をいかに発揮し、六連勝。その内容も、すべてストレート勝ちという完べきなものでした。

市内のママさんバレーボールのレベルは高く、道大会に出場する前の市内予選を勝ち抜くことが、難しいそうです。全道大会では、決勝戦まで進むと、決勝を戦う二チームだけが、競技場の中央で試合をできるので、とても気持ちが良いそうです。過去二回の出場で果たせなかった「センターコートでの試合」を目標に頑張ってきました。

練習は、毎週二回、午後六時半ころから二時間半くらい行います。始まりが、夕食の時間帯になるので、家事を終えた後に、途中から駆けつける人や、子どもを連れてくる人もいます。

家事を全部自分でこなす人、子育てに忙しい人、朝から夕方まで仕事をしている人など、メンバーの状況はさまざまです。しかし「目標に向かって、仲間で力を合わせて頑張るのが楽しい。充実している、バレーボールが元気の源です」と、みんなが口をそろえます。

◆ ◆ ◆

ひがすといー

第32回

札幌刑務所(三)

刑務所の変遷

一八八二(明治十五年)、開拓使が廃止され、北海道には札幌、函館、根室の三県が置かれます。その四年後、北海道庁が設置されました。札幌監獄署は、何度か名称を変えた後、一八九一(明治二十四)年には北海道庁監獄署と改称します。一九二二(大正十一年)、当時の監獄に関する法律の改正により監獄という名称が刑務所に改められたことから、札幌刑務所と改称され現在に至っています。

北海道開発名誉作業班の活躍

一九三七(昭和十二年)に日中戦争が始まり、次第に戦時色が濃くなります。労働力増強のため、刑務所受刑者も軍の工事などに動員されました。札幌刑務所からも、札幌陸軍第一飛行場(現在の丘珠空港)などの工事に受刑者が従事しています。

敗戦後、戦時体制は解除されましたが、戦時中に道外刑務所の約40%が損傷を受け、各刑務所は過剩収容の状態になりました。そこで法務省が中心となり、道



昭和23年ころの札幌刑務所

◆ ◆ ◆

現在、札幌刑務所では、受刑者に対し、刑の執行を通じて更生を実現することなどを目的に、木工、革製品などの製作を行わせています。毎年、秋には矯正展を行い各地の刑務所で作られた製品の展示、即売も行っています。

◆ ◆ ◆

また、札幌刑務所では、SK劇団という受刑者による劇団を編成し、各地の作業班を慰問のために回りました。受刑者だけではなく住民からも喜ばれたといえます。